

## 教育、民生常任委員会記録

招集年月日	平成28年 2月26日(金)
招集の場所	議員控室
開会	午後 1時56分
出席者	委員長 福田 淑子 副委員長 吉田 二郎 委員 柳田 政喜 委員 大橋 昭太郎 委員 佐野 善弘 委員 平吹 俊雄  議長 吉田 眞悦
欠席者	委員 橋本 四郎
職務のため出席した者の職氏名	主幹兼係長 相澤 正典
協議事項	政策研究テーマについて
その他	なし
閉会	午後 3時10分

2号様式 協議の経過

	<p>開会 午後1時56分</p>
<p>福田委員長</p>	<p>みなさん大変お疲れ様でございます。ただいまより、教育、民生常任委員会の会議を行います。議会運営委員会に関係する皆さんは午前中、大変お疲れ様でした。</p> <p>それでは、ただいまより会議を行います。委員7人中6人出席ですので、委員会は成立いたしております。橋本委員におかれましては、風邪をひいたということで欠席という連絡が入りました。今日の会議は研究テーマをどのように取り上げて取り組んでいくかを具体的に皆さんと協議を行いながら示していきたいと思っておりますので、予めホワイトボードに皆さんの研究テーマは、これがいいということで書いていただきました。</p> <p>それに基づいて1番から5番について各委員から研究テーマの提言をしていただければと思います。まず1番目の奨学金返還支援事業についてをお願いいたします。皆さんには予め資料をお渡ししておりますので、お目通しをお願いします。では、柳田委員。</p>
<p>柳田委員</p>	<p>私の方から、1番目の奨学金返還支援事業について、ご説明いたします。</p> <p>まず、この話のものは、河北新報の2月18日木曜日付けで出た記事の中にございました。資料の1ページ2ページとありますが、こちらは思い切った事業をしたという石巻市の例です。</p> <p>こちらの事業の特徴としては、介護関係の従事者が少なくなっている。新聞記事を見ますと10年後は団塊世代の方々が75歳以上を迎える、それに向かって県内の介護関係従事者の人員確保が69%しか確保できないだろうという記事がありました。</p> <p>その中で石巻市が思い切って、このような奨学金の返還制度をすることによって定住者を増やす、介護関係職員を増やすという手立てをしているものです。わが町としても、介護関係の会社は何社ありますが、人員確保が難しいという話を聞いております。それにプラスして私として2ページ目を見ていただきたいのですが、他の自治体の政策との比較検討ということで石巻市で出していますが、こちらで北秋田市奨学金返還支援制度などは、こちらは、あまり業務に固定されていないようです。</p> <p>あくまで北秋田市に居住する被雇用者という形で勤務先は市外でも可と書いています。または、市内に起業した方という形で枠組みがあります。これは、あくまで定住施策の一環としてやっているものです。</p> <p>同じように岐阜県白川町で、ふるさと定着促進補助制度という形で、こちらも居住目的でやっているものです。あと、資料添付した兵庫県加西市は、随分前からUJターンという形がありますが、そちらにあわせての定住促進という形で出しているものです。</p> <p>石巻市は介護関係に特記した形で出しています。これを、わが町でも考</p>

	<p>えていかないと、定住促進だけではなくて専門職種の方、特に介護関係プラス、皆さんご存知のとおり保育関係の人員不足は、わが町でも、だいぶ前から課題になっているところです。</p> <p>その辺に対しまして、補助金制度を導入しては、いかがかなというテーマを私から提案いたします。以上です。</p>
福田委員長	<p>ありがとうございました。では、2番の健康づくり推進条例の制定に向けて、大橋委員お願いします。</p>
大橋委員	<p>常任委員会が研究テーマを設けて今年で5年目になり、ひとつの区切りの中で、この条例制定に向けた政策提言といったようなものが、大きく今まで言われてきたところです。</p> <p>この常任委員会の中で、このような健康づくり、国民健康保険、介護保険制度の減額に向けてというのをやっている経過もありますし、そういったような中、もっと一歩進める形の中での、この健康づくり推進条例の制定に向けてというテーマでは、いかがかというようなことで提案させていただきました。以上です。</p>
福田委員長	<p>次に、人口減少の抑制の取り組みについてを平吹委員お願いします。</p>
平吹委員	<p>国の新たな3本の矢が出ました。GDP600兆円、希望する出生率1.8、介護離職ゼロと出ましたけれど、出生率ということで今、国としては1.4とわが町としては、1.32という状況であります。総合計画の中にも、今から25年後18,859人ということで、しかしながら、国立社会保障人口分類研究所では16,661人と推計されている中で、なんとと言っても、これから人口を減少する、食い止める事がこれから必要ではないのかと思っています。</p> <p>抑制するためのものとして、自然的な要因いわゆる出生率、それから社会的要因ということで転入転出の問題が出てくると思います。そのようなことを調査しながら最低限、今から、25年後のことも美里町総合戦略に出ているのですが、その前に一つひとつクリアしながら、現段階で増えている地区もございます。</p> <p>それも限度があるのかと思っておりますが、その辺、目に見えて人口減少があるということですので、それを食い止める、人口減少のなかで人口を増やすということは容易ではないと思うので、抑制そして出生率1.8%を望んだらどうかなと思っておりますので、研究してはどうかということです。</p>
福田委員長	<p>ありがとうございました。佐野委員お願いいたします。</p>
佐野委員	<p>研究テーマということで、小中学校の再編ということで考えていたのですが、この内容については2月8日の全員協議会の中で出された内容で、現在、教育委員会が中心となってアンケートなり住民との意見交換等をしてありますが、これについては町内の少子化が、だいぶ進んでいますので、このような再編問題については避けて通れない問題であると思ひまして、</p>

	<p>この辺は地域のコミュニティーの場、小学校とかなってますので、その辺の内容とか、いろいろ今後、地域なり地域の住民の方とか、生徒にとって、どのような形が教育環境として一番良いのか、その辺は教育委員会として研究していると思うんですけども、我々議員として、どのような内容が良いのかを研究したほうが良いのではないかと思ひまして研究テーマとしてあげました。以上です。</p>
福田委員長	<p>ありがとうございました。では、吉田委員お願いいたします。</p>
吉田副委員長	<p>私はあとから委員長が総括してくれると思いますが、ゴミ問題というのは人間が活着ている間の永遠のテーマとして、よく言われてきた問題でございます。</p> <p>マイバッグ、エコと言われながらも、今日、委員長が提出してくれた資料ですけども、わが町といたしましてもゴミの減量、県内でみると下の方の番付けになっていきますけれども、リサイクル率も業者に言わせると捨てればゴミだけど仕分けすれば良い資源なんですけれどもねという声も聞かされておりました。</p> <p>この資料を見てのとおり隣町の涌谷町をいうのもあれですけども、最下位の次にリサイクル率少ない本町だなと思ひます。今日の会議の前にゴミの問題もいいですねと言われたものが頭から離れませんでしたので、私も大賛成で皆さん、いい意見アイデア持ってきたんですけども、ゴミ問題大賛成の一員でございます。以上です。</p>
福田委員長	<p>ありがとうございました。私もお話しさせていただいてよろしいでしょうか。まず、ゴミのランキングを調べたら下から...厚労省とインターネットに出ているもの違うので、インターネットに出ているものは下から 2 番目で、ものすごくショックだったんです。10.3%という、どういう出し方しているか私も分からないですが、全国の状況を見ますと...。暫時休憩いたします。</p>
	<p>休憩 14 : 10 再開 14 : 12</p>
福田委員長	<p>再開いたします。1 番高いところで 99.7%かな。そういう地域もあるんです。そういった状況で美里町は何でこんなに低いのかなというのが、ものすごい疑問と同時に、かなり分別して私なりにやっているんですけど...すごいショックだったのが事実です。</p> <p>全国のなかでは、ゴミがゼロというところもある、燃やすゴミを出さない、かなりの分別でやっている状況なので、それは直接、美里町の財政にも係わってくるというのもありまして、決算では災害の後には結構多かったですけれども、落ち着いてくると燃やすゴミが多くなっていると。</p> <p>平成 26 年度では 2 億 1,650 万円というのが決算で美里町が支払った、それは燃えるゴミに対するものも、かなりの金額が含まれていますので、ゴミ減量化は町の財政も係わるのですが、地球規模で考えていく、地球温</p>

	<p>暖化ね、私が調べた中では鹿児島県志布志市というところが、世界でもかなりの減量化に取り組んでいて、自治体の取り組みが世界でも注目されて、焼却なしでゴミを分別して埋め立てゴミを減らす共生・協働の先進的な取り組みとしてフィジー島とかでも、地球規模でも考えていかななくてはならない、美里町のそういった、これからの環境を考えなくては...、取り組んでいく必要があるのかなと思って、私も吉田委員と同じようにゴミ減量化を考えたところです。</p> <p>それで、皆さんからいろいろ、この研究テーマがいいのではないかとということで出されたんですけども、もし、お聞きしたいことがあれば、各々お聞きしていただいてもいいと思いますけれども。</p>
平吹委員	この総括表を最初から説明をしてください。美里町から始まって、総人口は分かります。ごみ総排出量とありますが、9,295、単位は分かりませんが、グラムですかトンですか、トンですね。これは、年間ですか。
福田委員長	25年度実績。
平吹委員	年間だね。次は一人当たりの排出量ということで、1,000グラムか1キロだ、その中で排出量28番目ということですね。内訳が生活系が28位、事業系が34位、次にリサイクル量が1,181トンですね、それで事業者直接再資源化量...これ、業者を除くということで。
柳田委員	業者の引き取り分ですね。
平吹委員	そして、リサイクル率ということで、これが、12.1ということですか。率は低いということで33位ということですね。これが、いわゆる後ろから3位と。直接焼却量が8,329トンということで、そして、最終処分が14.1ということは、最終処分率は高いということは、それだけゴミが多いということで理解してよろしいでしょうか。
福田委員長	はい。
平吹委員	<p>そういうことで、リサイクルは下から3番目、それから量は上位のほうだということで、これから、なおさら真剣に住民と共に研究調査をしたらよいのではないかとということかと思います。</p> <p>今の時代、ポイ捨ても、あちこちやっている状況で、ゴミに対する意識力を町民一丸となってやるということ、リサイクルになってから、だいぶ経ちますので、再度研究するのも良いのかなと思っているところです。</p>
福田委員長	ほかにご意見ございませんか。
大橋委員	この、1人当たりの排出量は、それ程多くないということで、いいんですね。順位が15位ということは。
福田委員長	<p>この表についての分析は私自身はしておりません。詳しくは、表のとおりとしか言えません。</p> <p>暫時休憩します。</p>
	<p>休憩 14 : 19</p> <p>再開 15 : 00</p>

福田委員長	再開いたします。委員6人出席ですので、委員会は成立いたしております。皆さんから、いろいろテーマを出していただきました。それで、一つにまとめてよろしいでしょうか。
	(「はい」の声あり)
福田委員長	では、一つにまとめたいと思います。どのようにしてまとめたらよろしいでしょうか。
平吹委員	委員長にお任せします。採決するなり、多数決なり。賛否をとったらよい。
大橋委員	委員長と副委員長がゴミというもの...
福田委員長	では、皆さんで決めていきたいと思います。委員長、副委員長ではなくて...。決をとってよろしいですか。簡単に。
	(「はい」の声あり)
福田委員長	1番目の奨学金返還支援事業について、よろしいと思う方。
平吹委員	何回も手を挙げてよいのですか。
福田委員長	皆さんから5つ出されたんですけども、どれがいいか、お話ししていきますね。決でなくてね。
平吹委員	私、さっき言いましたから。
福田委員長	平吹委員はゴミの減量化。では、柳田委員。
柳田委員	私は1番です。
福田委員長	1番、奨学金返還支援事業。はい、大橋委員。
大橋委員	ゴミ減量化。
福田委員長	5番のゴミ減量化です。はい、佐野委員。
佐野委員	任せますから。委員長に任せますから。では、副委員長。
吉田副委員長	ゴミでございます。
福田委員長	それでは、おおかたの意見がゴミの減量化についてということになりましたので、これを研究テーマにして取り組んでいきたいと思います。それで、研究テーマについての期限ですが、今年度中に出す場合は12月議会に出さなければならないということです。 今年と来年に跨る場合は、来年の9月までに出すという状況になっておりますので、どのようにして期限について決めたらよろしいでしょうか。
柳田委員	1年でいいと思います。
福田委員長	単年度、今年度。
平吹委員	前回、回答書というか執行部からきたんですけども、まとまってきたんですよ。26年、27年まとまってきたので、やはり、単年ごとに提言して単年ごとに回答をもらおう。 そうすると1年後2年後になると、ちょっと間が外れたような感じがしますので、やはり1年ごとに、提案したものは、その都度してもら

	うと。
福田委員長	ほかに意見ありませんか。ないようですので、ゴミの減量化についての取り組みは、平成 28 年 12 月までを目途にして提言していくということによろしいでしょうか。
	(「はい」の声あり)
福田委員長	では、そのようにしたいと思います。次回については、研究テーマの中身の進め方について取り組んでいきたいと思います。3月は、いつがよろしいでしょうか。3月の議会に、このテーマを...、文書出しますので、その文書についても皆さんと協議しなければならない。口頭でないものね...。休憩します。
	休憩 15:06 再開 15:08
福田委員長	再開いたします。委員 6 人出席しておりますので、委員会は成立いたしております。次回は進め方についてを協議したいと思いますので、いつよろしいでしょうか。
大橋委員	確定かどうかわかりませんが、議会終了後に全員協議会が予定されているようですけれども、はっきりしていないのですか。
吉田議長	決まりと思っていてください。23 日午前 9 時 30 分。
福田委員長	では、3月23日の午後1時30分からでよろしいでしょうか。都合の悪い方いませんか。では、3月23日の午後1時30分から会議を行いたいと思います。皆さんから他にありませんでしょうか。 では、この会議を閉じたいと思います。副委員長あいさつをお願いします。
吉田副委員長	それでは、大変お疲れ様でございました。研究テーマが決まりまして、皆さんで力を出し合って、より良い調査結果を出したいと思います。本日は大変ご苦勞様でございました。
	閉会 午後 3 時 10 分
	<p><b>【まとめ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、民生常任委員会の研究テーマについて、各委員から次のような提案が出された。1. 奨学金返還支援事業(柳田委員) 2. 健康づくり推進条例の制定に向けて(大橋委員) 3. 人口減少の抑制の取り組み(平吹委員) 4. 小中学校の再編について(佐野委員) 5. ゴミの減量化について(吉田副委員長・福田委員長)</li> <li>・協議の結果、ゴミの減量化についてを研究テーマにして、平成 28 年 12 月を目途に調査研究して提言することにした。</li> <li>・次回は、3月23日(水)午後1時30分から研究テーマの進め方についてを協議することにした。</li> </ul>

会経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成28年 2月26日

教育、民生常任委員会

委員長

---